

がん対策専門委員会

目 次

がん対策専門委員会報告書

- I. は じ め に
- II. 県指定がん診療連携拠点病院の追加について
- III. 広島県におけるがん医療ネットワークについて
- IV. 広島県における5大がん以外のがん医療について
- V. お わ り に

がん対策専門委員会

(平成 23 年度)

がん対策専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 がん対策専門委員会

委員長 井内 康輝

I. はじめに

地対協の本委員会は、国のがん対策の施策のひとつである“がん診療連携拠点病院”の指定に関して、広島県において指定されることを希望する医療機関の機能調査を行い、これを評価した上で広島県としての推薦医療機関を決める活動を行ってきた。その結果、平成 18 年 8 月には、7 二次医療圏の数をこえる 10 医療機関が指定され、平成 22 年 2 月には 1 医療機関が追加されたことから、現在、広島県内では、11 医療機関が国の“がん診療連携拠点病院”として指定されている（表 1）。さらに平成 22 年度から国の指定病院に準ずるがん医療の機能をもつ広島県内の医療機関を、県が独自に指定する“がん診

表 1 広島県における国指定の“がん診療連携拠点病院”

医療機関名	二次医療圏
広島大学病院	広島
県立広島病院	広島
広島市立広島市民病院	広島
広島赤十字・原爆病院	広島
広島市立安佐市民病院	広島
広島総合病院	広島西
呉医療センター	呉
東広島医療センター	広島中央
尾道総合病院	尾三
福山市民病院	福山・府中
市立三次中央病院	備北

表 2 広島県の指定する“がん診療連携拠点病院”

医療機関名	二次医療圏
呉共済病院	呉
尾道市立市民病院	尾三
福山医療センター	福山・府中
中国中央病院	福山・府中
*中国労災病院	呉

*平成 24 年 3 月指定

療連携拠点病院”の制度を作り、医療機関の機能調査をふまえて、平成 22 年 11 月には 4 つの医療機関を指定した（表 2）。

しかし、こうした国や県の制度にもとづく“がん診療連携拠点病院”を指定することのみでは、県民が県内のいずれの地に住もうと、適切で有効ながん医療を受けられる体制ができたとはいえない。すなわち、広島県としては、がん医療を提供する医療機構が、がんの種類別にそれぞれネットワークをつくり、検診、精密検査、周術期治療、フォローアップを分担して行う体制が必須であると考えてきた。

そこで、地対協の本専門委員会はその下に、5 大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝がん）の医療ネットワーク構築のために、特別委員会あるいはワーキンググループを作り、医療機関で実際にがん医療に携わる専門家を糾合して、ネットワークを構築し、実際に機能させることをめざしてきた。

II. 県指定がん診療連携拠点病院の追加について

独立行政法人労働者健康福祉機構中国労災病院から、平成 23 年 10 月に県に対して、指定の申請がなされた。本委員会で審議の上、平成 24 年 1 月には、県の担当者による現地調査が行われ、指定要件の充足状況の確認と、本委員会の審議において確認が必要とされた事項について調査がなされた。その結果、当該病院が県から指定を受けることは妥当と判断され、平成 24 年 3 月 1 日付けで県指定の“がん診療連携拠点病院”に加えられた（表 2）。

III. 広島県におけるがん医療ネットワークについて

広島県のがん医療ネットワークは図示すると図 1 のようになる。がん診療連携拠点病院を核として、地域におけるがんの検診機関やがん医療を行う医療

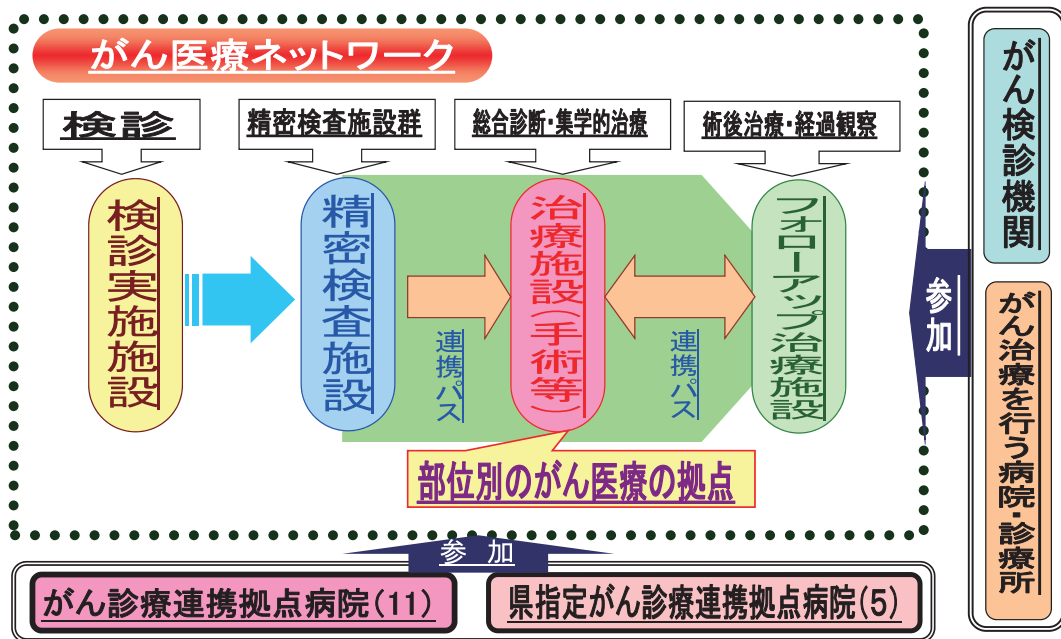


図1 がん医療ネットワークの構築

表3 5大がん医療ネットワークの状況（平成23年度末）

	基準の策定	施設の公表	連携バスの作成
乳がん	終了	平成20年より	終了
肺がん	終了	平成21年より	終了
肝がん	終了	平成24年より	平成24年末まで検討
胃がん	平成24年末まで検討	平成24年末まで検討	平成24年末まで検討
大腸がん	平成24年末まで検討	平成24年末まで検討	平成24年末まで検討

乳がん：乳がん医療連携推進特別委員会（平成19年度～平成22年度）

（委員長：広島市民病院乳腺外科主任部長，榎垣健二）

肺がん：肺がん医療連携推進特別委員会（平成20年度～現在）

（委員長：広島大学教授，岡田守人）

肝がん：肝疾患医療連携推進特別委員会（平成22年度～現在）

（委員長：広島大学教授，茶山一彰）

胃がん・大腸がん：胃がん・大腸がん医療連携推進特別委員会（平成23年度～現在）

（委員長：広島市立安佐市民病院外科部長，岡島正純）

機関がこぞって参加し，これらは，それぞれがもつ機能から検診実施施設群，精密検査施設群，周術期治療施設群，フォローアップ治療施設群に分かれて県のホームページなどで公表される。これら施設は地域連携バスで結ばれており，患者は，私の手帳(My Note)を医療機関に持参して受診する。

5大がんについて，こうした医療ネットワークを順次構築していったが，現在，肝がんまでがほぼ完成し，胃がん，大腸がんについては平成24年中に完成する予定である(表3)。この構築に尽力されてきた委員会の名称なども表3に示す。

IV. 広島県における5大がん以外のがん医療について

広島県のがん医療については，前述の5大がんについてはほぼ把握されてきたが，5大がん以外については，その発生数や各医療機関でどの程度の数の患者の医療が行われているか，についての把握がこれまで十分でなかった。

5大がんとそのほかの10部位のがんについて，広島県の地域がん登録(平成17～19年)からみたがんの登録数(発生数)とがん診療連携拠点病院から登録された(医療を受けた)数と，それ以外の医療機関から登録された数の割合を一覧表にすると表4と

表4 がん登録からみた主な部位別のがんの登録数（発生数）と、がん診療連携拠点病院とそれ以外の病院からの登録数の割合（平成17～19年）

部 位	登 録 数 (全がん中の 割合, %)	登録数の割合 (%)	
		がん診療連携 拠点病院	それ以外
胃	9,334 (16.7)	49.1	34.4
大 腸	8,456 (15.2)	51.5	37.0
肺	6,939 (12.4)	66.1	28.9
肝	4,679 (8.4)	61.0	34.1
乳 房	4,075 (7.3)	76.2	20.8
前立腺	4,011 (7.2)	62.2	33.1
膵 臓	1,946 (3.5)	55.7	38.7
膀 胱	1,837 (3.3)	62.5	32.8
悪性リンパ腫	1,720 (3.1)	72.2	21.2
子 宮	1,471 (2.6)	74.1	19.9
胆嚢・胆管	1,396 (2.5)	52.2	42.2
甲状腺	1,386 (2.5)	49.2	49.1
腎・尿路	1,379 (2.5)	69.9	27.5
食 道	1,325 (2.4)	56.8	30.7
口腔・咽頭	1,024 (1.8)	83.8	12.8

なる。

この表からは、拠点病院への患者の集中度の高い部位（口腔・咽頭、子宮、悪性リンパ腫、乳房など）

もあるが、拠点病院以外の医療機関の比率の高い部位（胃、大腸、膵臓、甲状腺、胆嚢・胆管）もあることが分かる。こうした観点から、拠点病院以外で実績のある医療機関については、がんの部位別に、とくに稀少ながんの場合を重点に、何らかの形で県民にデータを提供することも必要と考える。

V. お わ り に

広島県のがん対策は全国レベルでみて高い評価を得ている。特に平成20～24年の5年間の県の、がん対策基本計画はその内容が優れていると評価されている。広島県においては、がん医療について、がん診療連携拠点病院を中心に5大がんの医療ネットワークを構築して、各医療機関の役割を明確にしていることも評価が高い。こうした取組みを実行することができたことについては、地対協の果たした役割が大きい。県・市の行政組織、県医師会、広島大学が一体となって様々の医療問題に取り組んできた実績が、がん対策においても実を結んだといえる。

今後も、日本一住みよい県、がん対策日本一の県、となれるよう、それに相応しい取組みを地対協としてすすめていきたい。

広島県地域保健対策協議会 がん対策専門委員会

委員長 井内 康輝 広島大学大学院医歯薬学総合研究科
委員 有田 健一 広島県医師会
岡島 正純 広島市立安佐市民病院
岡田 守人 広島大学原爆放射線医科学研究所
鎌田 七男 (財)広島原爆被爆者援護事業団
佐々木昌弘 広島県健康福祉局
篠崎 勝則 県立広島病院
臺丸 尚子 広島市健康福祉局
茶山 一彰 広島大学病院
津山 順子 広島県健康福祉局
永田 靖 広島大学大学院医歯薬学総合研究科
檜垣 健二 広島市立広島市民病院
檜谷 義美 広島県医師会
本家 好文 広島県緩和ケア支援センター